

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

『第59回中高生大会』

8月16日(水)～17日(木)、倉敷市自然の家を会場に開催されました。台風7号のため一泊短縮して、一泊二日の開催となりました。出席者は、小中高生が24名、CS(キャンプ・サバー)が16名、教役者が10名、合わせて50名でした。

2019年が台風のため中止、それから3年間もコロナで中止、5年ぶりの開催で、よくこれだけの人数が集まったと参加者に感謝しました。特にCSの16名には、中高生大会への愛を感じました。私は、二日目に聖餐式の司式・説教を担当しました。当日の福音書は、マタイ伝14章22節以下のイエス様の「湖の上を歩く」です。

「イエス様が湖の上を歩い

たと書いてあるけど、みんなは信じる? 信じない?」と聞いてみました。それぞれの意見があり、その後、「イエス様から『来なさい』と言われたペトロさんも湖の上を歩けたと書いてあるけれど、信じる?」と聞いてから、私は「このお話はいつも一緒にいてくださるイエス様から『来なさい』のような語り掛けを聞いて、それを信じて一歩進めば、思ってもみないような奇跡(それは、ペトロさんが湖の上を歩けたこと)と同じような体験が出来ますよ、と教えてください」と聞いて、イエス様からの語り掛けをよく聞けるようになるために、新約聖書の福音書をよく読んで、イエス様とよくお話する(お祈りする)ことが大切ですよ」とお話ししました。小学生には少し難しかったかもしれませんが、CSの皆さんが真剣に聞いてくれたことがとても嬉しかったです。

神戸教区は、現在牧師を指して学んでいる神学生がい

ません。このCSの中から将来の牧師が起こされること祈っています。男女の性別は問いません。(神戸教区主教)

2023年
日本聖公会宣教協議会
ぶどうの枝だより
10

宣教協議会プログラム について(前号からの続き)

ぶどうの枝だよりも第10号となりました。清里での宣教協議会開催も近づいて参りました。今回は前回第9号の続きとして、宣教協議会のプログラムの中からいくつか紹介いたします。

「宣教協働区アワー」

このプログラムは、東日本宣教協働区、中日本宣教協働区、西日本宣教協働区ごとに分かれて時間を過ごします。内容については各宣教協働区の協働委員の皆さんに考えて頂きますが、日本聖公会総会で宣教協働区制への道を歩むことをご提案された主教会からのメッセージを思い巡らせたり、これまでなかなかお目にかかることの出来なかった協働区のメンバーと一緒に昼食を食べながら、豊かな交わ

りの時となりますように。

「清里コール」

今回の宣教協議会の集大成でもあります。何か「宣言」というような形式ではなく、「呼びかけ」のような形式でまとめていきたいと考えています。宣教とは、神様が主体となつて進められている、神の国の成就を目指す絶え間ない働きです。私たちはこの働きに招かれています。そしてその招き(コール)は今の時代、そしてそれぞれの状況においてどのように変化してきているのか、私たちはそれを机の上で考ええるのではなく、10年の実りを持ち寄り、私たちのあゆみ、物語を聴き、いのちの現場で働かれています5人の講師の皆さんからお話を伺い、そしてグループに分かれて思いを分かちあうことによつて神様からの呼び

かけ(コール)に伝えていきたいと思えます。11月の宣教協議会に至るすべてのプロセスが「清里コール」へとつながっています。

「礼拝について」

礼拝はセーフチャーチワークキンググループ、祈禱書改正委員、青年の皆さんに協力を頂き豊かな祈りの時間を持つ予定です。神様の御声に耳を傾け、となりびとのために代禱を献げ、聖歌を賛美する事も神様からの呼びかけに応える大切な時間です。

コロナ禍を経て開催されようとしている宣教協議会です。清里に実際に集まる参加者のみならず主を信じる信仰の仲間とご一緒に神の国への呼びかけに伝えて参りたいと思えます。

(文責:越山 哲也)

